

都市再生整備計画 事後評価シート

こまきせんえんせん
小牧線沿線地区

令和7年2月

愛知県小牧市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名		愛知県		市町村名		小牧市		地区名		小牧線沿線地区			面積		820			
交付期間		令和2～6年度		事後評価実施時期		令和6年度		交付対象事業費		3,227.6		国費率		0.358				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名															
			道路(市道久保一色畑7号線) 街路(小牧文津地区((都)文津循環1号線ほか2路線)) 公園(樋下公園、岩崎山公園、町屋公園、小牧口西公園、うたず西公園、松林東公園、池田公園、宮前公園、天王塚公園、本田会館北公園) 河川((仮称)第3老人福祉センター(地下貯留施設)、本田会館北公園(地下貯留施設))、 地域生活基盤施設(地域防災施設)(小牧口西公園(耐震性貯水槽)、本田会館北公園(耐震性貯水槽)、松林東公園(耐震性貯水槽)、うたず西公園(耐震性貯水槽)) 高次都市施設地域交流センター((仮称)第3老人福祉センター(にぎわいゾーン)) 土地区画整理事業(小牧文津地区、小牧岩崎山前地区、小牧南地区、小牧原樋下地区)															
		提案事業	地域創造支援事業((仮称)第3老人福祉センター:(仮称)第3老人福祉センター(にぎわいゾーン除く))、事業効果分析調査 事業活用調査(街区公園整備事業(ワークショップ):樋下公園外7公園)															
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(岩崎山公園、町屋公園、うたず西公園、松林東公園、池田公園) 河川(本田会館北公園(地下貯留施設)) 地域生活基盤施設(地域防災施設)(松林東公園(耐震性貯水槽)、うたず西公園(耐震性貯水槽))						公園については、土地区画整理事業の進捗状況にあわせて、公園事業の実施時期を見直したため削除している。河川については、他の交付事業へ移行したため削除している。地域生活基盤施設については、公園事業と一体に整備する必要があるため、公園事業の実施時期見直しに伴い削除している。				なし					
		提案事業	地域創造支援事業(事業効果分析調査) 事業活用調査(街区公園整備事業(ワークショップ):樋下公園外7公園)						事業効果分析調査については、事業活用調査へ移行したため削除している。街区公園整備事業については、関連事業に移行したため削除している。				なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(駅西公園) 地域生活基盤施設(地域防災施設)(宮前公園(耐震性貯水槽)、樋下公園(耐震性貯水槽))						公園については、中心市街地にふさわしいにぎわいを創出するために追加している。地域生活基盤施設については、防災機能強化を図るために追加している。				なし					
		提案事業	事業活用調査(事業効果分析調査)						地域創造支援事業から移行したため追加している。				なし					
	交付期間の変更	当初	令和2～6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし											
		変更	—															
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期				
			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値											
指標1		計画区域内居住率	(%)	32.0	R1	32.1	R6	32.4	32.7	○	あり なし	土地区画整理事業実施4地区のうち、小牧原樋下地区の事業が完了し、その他3地区においても事業が終盤に差し掛かっている。その結果、良好な住環境が形成されつつあり、特に小牧南地区の人口定着が進んだことにより計画区域内居住率が増加傾向に至っていると考える。	令和7年10月					
指標2		新築着工住宅件数(計画期間内の累計)	(件)	0	R1	335	R6	202	338	○	あり なし	土地区画整理事業実施4地区のうち、小牧原樋下地区の事業が完了し、その他3地区においても事業が終盤に差し掛かっている。それに伴い、公園整備とともに耐震性貯水槽も整備し、災害に強い居住環境の提供が進み、新たな居住地選択者に当該エリアが評価され、新築着工住宅件数の増加に至っていると考える。	令和7年10月					
指標3		地域住民が主体的に管理するコミュニティ拠点施設数(累計)	(施設)	0	R1	3	R6	1	4	○	あり なし	樋下公園、小牧口西公園、天王塚公園、本田会館北公園は、整備時に住民ワークショップが開催され、公園プランとともに公園利用のルール等の話し合いが実施された。これらのワークショップを通じて、公園の維持管理に関する意見交換の機会にもなり、結果、地域住民との管理委託契約の締結につながることができたと考える。						

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	小牧市		地区名	小牧線沿線地区			面積	820
交付期間	令和2～6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	3,227.6	国費率	0.358		
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 指標以外の指標) による効果発現 状況	指 標		単位	従前値	目標値	数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み		
	その他の 数値指標2										
	その他の 数値指標3										
4)定性的な効果 発現状況	本事業で整備した第3福祉老人センターは、住民が気軽に利用したり、住民同士が交流できる「にぎわいゾーン」を有している。地元住民に浸透しており、生涯学習利用に留まらず、認知症カフェや相談会といった福祉に関連した交流活動、住民活動のミーティングの場として活用されており、施設利用者を対象としたアンケートでは、「ここに来るようになって元気を取り戻している」や「親睦できて良かった」との声が寄せられるなど、地域コミュニティの活性化を通じた誰もが暮らしやすいまちづくりへ貢献していると考えられる。さらに、今後についても、にぎわいゾーンを活用した地元住民によるイベント等が計画されるなど、さらなる住民の生活意欲向上が期待できる。 また、公園事業ではワークショップに参画した地元住民自身が維持・管理にも関わることで、公園への愛着形成が図られ、さらには維持・管理に携わる地元住民の輪が広がっている。										
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等		
	モニタリング	令和4年度にモニタリングを実施し、モニタリングシートを作成した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	次期計画においてもモニタリングを実施する。		
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	官民連携による取組	【公園整備の住民参加】 公園整備等について、計画段階からワークショップ手法による住民参加を行い、施設内容だけでなく、施設の維持・管理についても住民自らが実施する方策と体制づくりを住民主体で実施する。			都市再生整備計画に記載し、実施できた			●	今後も、住民参加の取組みを推進し、施設に対する住民の愛着が高まるように努めるとともに、公園の維持管理等に地域住民の方の参画へとつなげる。		
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり 体制の構築	地域コミュニティの維持・活性化に向けた、住民主体の公園の維持・管理活動として、地元区による公園内落ち葉やトイレ等の清掃活動を週1回程度実施。			都市再生整備計画に記載し、実施できた				今後も、引き続き住民主体の地域活動を支援し、組織化を見据えた働きかけを行う。		
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●			
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

小牧線沿線地区(愛知県小牧市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
◇安全・安心で快適な居住空間の創出 目標1：多様なニーズに対応した良好な住環境の形成による人口定着 目標2：災害に強い安全・安心なまちづくり 目標3：地域コミュニティの維持・活性化による誰もが暮らしやすいまちづくり		計画区域内居住率	(%)	32.0	R1	32.1	R6	32.7	R6
		新築着工住宅件数(計画期間内の累計)	(件)	0	R1	335	R6	338	R6
		地域住民が主体的に管理するコミュニティ拠点施設数(累計)	(施設)	0	R1	3	R6	4	R6

The map displays various project zones and facilities along the Komaki Line. Key locations include Komaki Station, Maikawa Station, and several local parks and community centers. The map uses color coding to distinguish between different types of projects: red for urban regeneration planning areas, blue for city functional promotion areas, green for residential revitalization areas, yellow for comprehensive revitalization areas, and orange for specific project sites. A legend at the bottom left explains these symbols.

A collage of eight photographs showcasing the results of the urban regeneration plan. The images include newly paved roads like 'Komaki Origuchi Area Road' and 'Himeji Line 1-4', modernized train tracks such as 'Tsumanaka Loop Line 2', and improved public spaces like 'Honda Kōin North Park 1 & 2' and 'Shimoda Park 1 & 2'. Each photo is labeled with its location and the specific improvement made.

まちの課題の変化	【達成されたこと】 ・市北部及び南部の住宅市街地での土地区画整理事業を始めとする基盤整備により、居住環境の整備・改善が進み、一定の人口定着が図られた。 ・土地区画整理事業により、住宅の新築着工数が増加し、市街地の老朽化した住宅が更新されるとともに、耐震性貯水槽を備えた公園整備等により災害に強い居住環境が提供でき、安全・安心なまちづくりが進捗した。 ・公園整備に関する住民参加のワークショップを実施することで、住民の地域への愛着増進を図るとともに、地域住民との都市公園管理委託契約を締結して、地域コミュニティの活動拠点として利用できる環境を整備できた。 ・第3老人福祉センターの整備により、市内の高齢者のみならず市外の一般来訪者との交流や世代交流が生まれ、高齢者の健康増進や生きがいのある生活環境の整備をより強化することができた。 【残された未解決の課題】 ・利便性の高い公共交通軸となる小牧線沿線の立地特性を捉え、交通結節機能強化を図る必要がある。 ・小牧駅を単なる交通結節点として捉えるのではなく、にぎわいや憩いを生み、目的地となる場所にする必要がある。 ・居住環境に課題のある未整備区域が残っているため、引き続き区画整理事業を進める必要がある。 ・同じ都市機能誘導区域内においても、未だ狭い道路が存在していたり、オープンスペースが無い等、住環境整備が必要不可欠なエリアが残っている。 【事業によって発生した新たな課題】 ・人口定着が進む中でも将来に渡って安定した人口定着を図るために、特に若年層である子育て世帯の定住を促進する必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	【効果を持続させるための方策】 ・土地区画整理事業の継続実施及び公園等の施設整備の実施や認定こども園の整備等により、これまで進めてきた生活基盤のさらなる形成を図る。 ・災害時に避難場所としても活用できる公園を整備するとともに、公園整備を通じたワークショップを開催することで市民活動を支援し、災害に対する意識を高め安全・安心な生活環境を構築する。 ・公共交通軸を中心とした交通便利性を向上するため、名鉄小牧駅周辺の整備により、交通結節機能を強化する。 ・小牧駅を目的地となる場所にするため、名鉄小牧駅周辺の整備によりにぎわいや憩いを創出する。 【改善策】 ・名鉄小牧線を中心とする市内で最も保育需要の高い中部地区に、保育需要に応じた受け皿の確保と、多様化する保護者の子育てニーズに総合的に対応する子育て環境整備を実施する。